

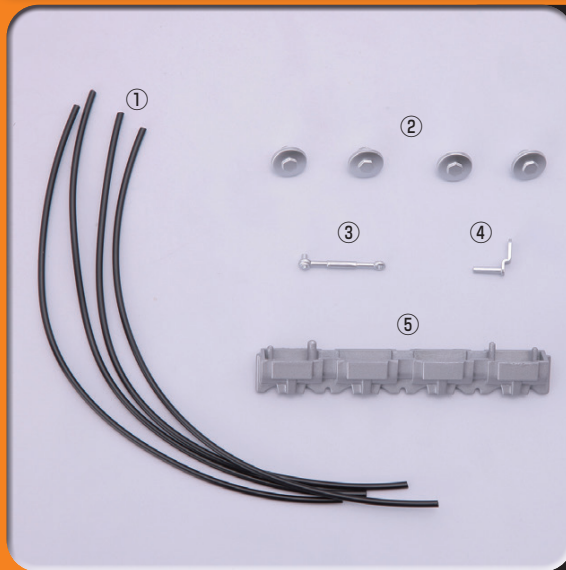
今号の作業

キャブレターを組み立てる①



今号では、キャブレターの組み立て作業に着手する。また、残り4個のタペットアジャスティングホールキャップを取り付け、シリンダーヘッドカバーを完成させる。キャブレター関連のパーツは細かく、形状も似通っているため、間違えないよう注意しながら作業しよう。

今号のパーツ



- ① オーバーフローチューブ×4
- ② タペットアジャスティングホールキャップ×4
- ③ チョークロッドA×1
- ④ チョークレバーA×1
- ⑤ フロートチャンバー×1

※③と④は今回の作業では使用しません。

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

使用する道具

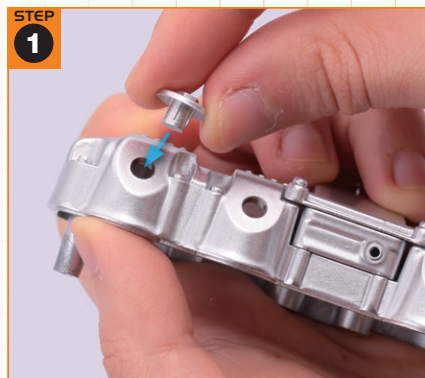
・カッターナイフ

あると便利な道具

瞬間接着剤(低白化タイプ)
※模型専門店で購入可能。

用意するもの

シリンダーヘッドカバー
(7号で組み立てたもの)

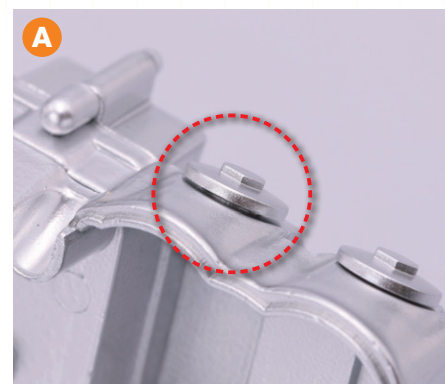


STEP 1
7号で組み立てたシリンダーヘッドカバーを用意しよう。リヤ側4カ所の穴に、②タペットアジャスティングホールキャップを真っすぐに差し込む。



STEP 2
ある程度まで差し込んだら、両手の指先で奥まで押し込む。押し込みにくい場合は、平らな台に押し付けるといいだろう。

タペットアジャスティングホールキャップがしっかり押し込めない場合の調整方法



A
7号と今号で取り付けるタペットアジャスティングホールキャップだが、シリンダーヘッドカバーとの間に“すき間”ができる場合がある。その場合は、以下の手順で修正しよう。



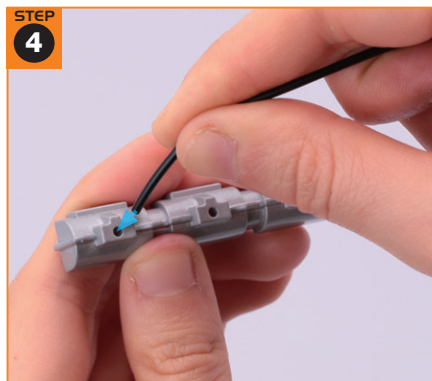
B
シリンダーヘッドカバーの内側から、タペットアジャスティングホールキャップの取り付け部分を押し出して取り外す。

STEP
3



4個のタペットアジャスティングホールキャップを取り付けた状態。取り付け部分に“すき間”が生じた場合は、前ページの手順に従って、削れた樹脂のかすを取り除いて差し込み直そう。

STEP
4



⑥フロートチャンバーを用意し、底面に設けられた小さな穴(4カ所)へ、①オーバーフローチューブを差し込む。

STEP
5

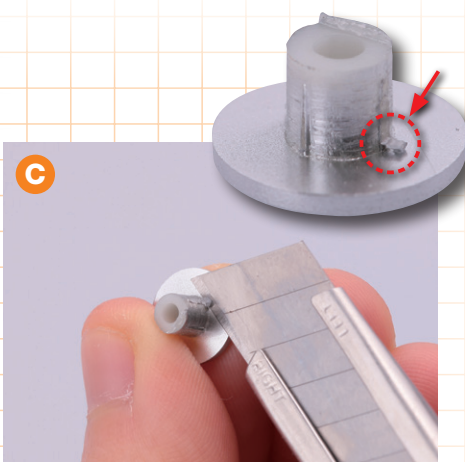


4本のオーバーフローチューブを差し込んで取り付ける。オーバーフローチューブは軟質な素材でできているので、曲がり具合を気にする必要はない。

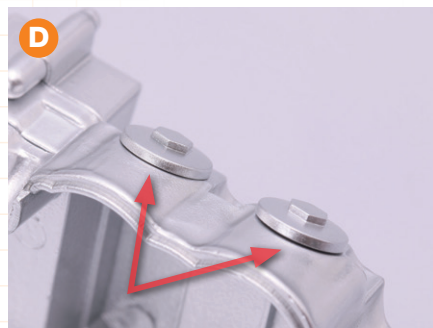
今号の完成



これで今回の作業は完了だ。③チョークロッドAと④チョークレバーAは、残りのパーツがそろった段階で取り付けるので、号数を書いたビニール袋に入れて大切に保管しておこう。



タペットアジャスティングホールキャップの軸部分を見ると、差し込むときに削れた樹脂が付着している。これが“すき間”を生じさせた原因なので、カッターナイフを使って削り取る。



左が樹脂カスを削り取った状態。右のタペットアジャスティングホールキャップと比べると、明らかに“すき間”が解消された。残りも同じ要領で対処しよう。



オーバーフローチューブが抜けやすい場合



オーバーフローチューブが簡単に抜け落ちてしまう場合は、瞬間接着剤(低白化タイプ)を使って接着しよう。普通の瞬間接着剤は、接着部分が「白く曇る場合」があるので、ここでは低白化タイプの使用をお勧めする。



フロートチャンバーの内側には、4カ所の小さな穴が開けられている。ここはオーバーフローチューブの差し込み口なので、こちら側からごく少量の瞬間接着剤を垂らす。